

testo 350 燃焼排ガス分析計 導入事例 コージェネプラントの運転を効率化



試運転、運転制御、そしてトラブルシューティングなど、コージェネレーションシステムの日常のサービス、メンテナンス業務はドイツ 2G Energy AGの測定要求に幅広く対応しています。"TA Luft"というドイツの排出ガスの基準（日本でいう大気汚染防止法）は、社内の開発者および技術者に日々関連しています。

様々な物質の排出ガス規制の上限値は、定期的に計量証明事業者により検査されます。それに加えて、2Gでは自主的に、システムの排出ガス 2,000稼働時間ごとに点検しています。

2G Energy AGについて

2G Energy社はドイツ、ノルトライン・ヴェストファーレン州ヘークにて1995年に設立し、世界4,500台以上の導入実績を有する、コージェネレーションシステム（CHP）のリーディングカンパニーです。

同社は、中規模の商業および産業、公的事業者および主要エネルギー供給業者、例えば農家、地方自治体および住宅部門など、多様な顧客を有します。

2G Energy AGの従業員数は500名を超え、2014年には186万6千ユーロ以上の売上高を達成しました。





稼働中の2Gコージェネレーションシステム



testo 350を使用した火力発電プラントの制御測定の前準備

課題

コージェネレーションシステムの試運転では、最適な排ガス分析計を用いた長期間のモーターのモニタリングが重要になります。これを実行するために、担当技術者は、排ガス中の NO_x と空気比を集中的に監視しなければなりません。これは試運転の時だけでなく、通常運転時の定期的なメンテナンスにおける、法廷排出規制値の検査にも適応可能です。かつて2Gは空気比測定にはラムダプローブを使用していたのですが、正確性に劣り、毎年交換していたため、高コストとなっていました。

ソリューション

彼らのコージェネレーションシステム開発、試運転、またはメンテナンスをより効率的に行うために、2G Energy AGは、testo 350を導入することを決定しました。testo 350は工業用途の様々な要求（堅牢性、取り扱いやすさ、高精度の測定）を満たすことが出来、その実用性を現場で日々発揮しています。さらに、testo 350は同時に6成分のガスを

測定可能で、標準装備の O_2 を除き CO 、 NO 、 NO_2 、 SO_2 、 H_2S 、 CxHy 、 CO_2 をオプションとして5成分まで測定箇所に合わせて現場で簡単に取り付けることが出来ます。

メリット

2Gは150人のサービスエンジニアを有しており、それぞれが1台ずつtesto 350を日々のメンテナンスのツールとして持っています。しかしながら、2Gのプラントと送電網とを接続している、企業の委託サービスエンジニア達も同様にtesto 350を使用しています。専用アタッシュケースは飛行機でも輸送できるほど堅牢で、testo 350の魅力の1つになっています。

また現場だけではなく、2Gでは研究開発部署でtesto 350を性能チェックに使用しています。testo 350は“希釈機能”（測定レンジ拡大機能）をオプションとして装備可能で、2Gではこの機能が最も重要な機能になっています。希釈機能によりガスを約40倍に薄めることができ、高濃度ガスの測定を可能にしています。

testo 350は、安定して高精度の測定値を出してくれているので満足しています。とりわけ、センサーの寿命を自分でチェックして取替が自分でできるので、メーカーに送り返す必要が無く重宝しています。

Vollmer氏
トレーニングマネージャー 2G Energy AG

*本カタログの内容は予告なく変更される場合があります。本カタログに掲載されている内容は、2016年10月現在のものです。